

進化経済学会

ニューズレター No. 40

June 2016

進化経済学会事務局
〒171-8501
東京都豊島区西池袋3-34-1
立教大学経済学部
荒川章義
03-3985-2345
a-arakawa@rikkyo.ac.jp



撮影：佐々木啓明

+++++

第20回東京大会の開催報告
2015年度若手セミナー開催報告
理事会報告
総会報告
2015年度部会報告
第21回京都大会開催アナウンス
オータムカンファレンス案内
会員異動

+++++

第20回東京大会開催報告

第20回 大会組織事務局長
大西立顕 (東京大学)

「社会・経済システムにおけるICTとネットワーク」をテーマとして、第20回進化経済学会東京大会の年次大会が2016年3月26日(土)、27日(日)に東京大学・本郷キャンパス・経済学研究科棟で開催された。同時に並行して、大会に併設する形で国際会議(International Conference on Socio-economic Systems with ICT and Networks)が経済学研究科・学術交流棟(小島ホール)で開催された。今年は都心の桜の開花が3月21日で平年より5日早かったため、桜にも天気にも恵まれた2日間となった。

年次大会では2日間で25セッションで85の報告があり、1日目にはRobert Boyer先生(Centre national de la Recherche Scientifique)の招待講演、2日目には有賀裕二先生(中央大学)による会長講演が企画された。総会では第1回フェローの受賞式が行われ、瀬地山敏先生(初代会長)と塩沢由典先生(二代会長)が今回受賞された。国際会議では、2日間で13のゲスト講演と32の一般報告があり、複雑系科学の分野で著名なAlan Kirman先生(Aix Marseille Université)の招待講演が企画された。また、大会中に青木昌彦先生、塩野谷祐一先生、井上純一先生の追悼講演も開催された。

本大会は、報告数が多かったため年次大会で5教室(セッション)、国際会議で3教室(セッション)を使用して開催した。大会参加者の人数は、事前申込と当日申込を合わせて約200名(海外からの参加者を除く)であり、おかげさまで2日間を通じてたいへん盛況な大会となった。1日目の夜には経済学研究科棟1階ホールで懇親会を開催し、約90名が参加した。板前さんが目の前で握ったお寿司を堪能することができ、特に海外からの参加者から好評であった。懇親会を大会会場と同じ建物で開催したおかげで、コストと移動時間の節約になり当日の運営もスムーズにできた。

報告数も参加者数も非常に多かったため、教室の確保、会場設営、受付などはたいへんな作業になると想定されたが、大会委員長の藤本隆宏先生(東京大学)の強いリーダーシップ、藤本先生の若手スタッフ・大学院生の非常に強力なサポート、多くの方々からの温かいご協力のおかげで無事に開催することができた。東京大学での開催は1997年度の第2回大

会以来の19年ぶりであり、節目となる第20回大会を担当することができ、非常に光栄なことだと感じた。

本学会が設立されたのは1996年であり、今年はちょうど20年目に当たる。学問体系が成熟してくると既存の概念に囚われがちになってしまい、場合によっては知らず知らずのうちに議論が机上の空論になってしまう恐れがある。常に異なる視点を併せ持ち、あらゆる可能性から議論することが重要になる。本学会は設立当初からこのような信念を抱き、自由な発想で経済・社会を理解していく試みを続けている。1996年といえば、ちょうどWindows95が流通しパソコンが一般的になっていく頃である。その後、情報通信技術(ICT)は指数関数的な驚異的向上を続け、いまのパソコンは1996年当時の1万倍の性能になっている。おかげで、いまやインターネットを通じてあらゆるものが瞬時つながる時代になり、グローバル化が進んで世界同時株安のような金融市場の連鎖が起きやすくなり、サプライチェーンが潜在的に大きなリスクを招く時代になっている。今後は、第4次産業革命による産業構造の変化が予想されている。このように、経済・社会は以前にも増して激しくダイナミックに変化(進化)するようになってきている。20年目にあたり、「社会・経済システムにおけるICTとネットワーク」をテーマとした本大会は、学際的な異なる視点から自由な発想で理解していく本学会の重要性を再認識する機会になった。

2015 年度若手セミナー開催報告

瀬尾 崇 (金沢大学)

2016年5月14日(土)、立教大学池袋キャンパスで開催された若手セミナーは、もともと2015年度の年次大会(於東京大学)に合わせて開催される予定であったが、運営側の準備等の都合上、年度をまたいでおこなわれた。

今回の若手セミナーは、英語論文執筆をテーマとする3回シリーズの最終回として位置づけられ、直近で海外ジャーナルに掲載経験のある若手研究者3名を招いて、過去2回の若手セミナーよりも執筆のプロセス・掲載に至るプロセスをかなり具体的に紹介していただくという内容で開催された。参加者は8名(うち3名はスピーカー、3名は運営担当者、若手会員1名、非会員1名)と、かなり寂しいセミナーであった。しかしながら、内容そのものは、今回を含めた3回シリーズのなかで、もっともリアルな話を聞くことができ、また自由で活発な質疑応答があったように感じた。非常に興味深く、内容の濃いプレゼンをご用意くださった3名のスピーカーの方々には、感謝申し上げるとともに、参加者が予想以上に少なかったことに関して運営者としてお詫び申し上げます。

セミナーの内容は下記の通りである。

日時：2016年5月14日(土) 14:00~17:30
場所：立教大学池袋キャンパス 4号館 4階 4408教室
内容：
14:00~14:10 開会
14:10~15:10 小川一仁(関西大学)
15:20~16:20 村上弘毅(東京大学・学振PD)
16:30~17:30 大木清弘(東京大学)
終了後、懇親会(18:00~)

3氏は、それぞれ専門分野は異なるものの、これまで執筆・投稿・掲載された英語論文の内容を簡潔に紹介しながら、投稿先の選び方のコツ、掲載に至る紆余曲折の体験談、また、エディターやレフェリーのやりとりについては、実際のファイルを映写して説明していただいた。フロアからはプレゼンの途中でも、その都度、質問や意見が投げかけられ、人数が少なかったこともあって、参加者全員が自分のこれまでの自らの経験と照らし合わせて、悩みや疑問がかなり解決できたように感じられた。

今回の若手セミナーは過去2回とは異なり年次大会に合わせて開催することができず、関心を持っていただいていたにもかかわらず、スケジュール調整がかなわなかった院生会員・若手会員の皆様には、お詫び申し上げます。 「英語論文執筆のコツ」をテーマとした開催は今回でいったん終了とさせていただきます。 次回は、今年度の年次大会と合わせた開催を目指して、また、院生会員・若手会だけでなくもう少し幅広く会員が集まれるようなテーマで開催できるよう工夫を凝らしたい。

最後に、今回、非会員にもかかわらずスピーカーを快くお引き受けくださった東京大学の太田清弘先生、会場を手配してくださった進化経済学会事務局担当の荒川章義理事には、特に感謝申し上げます。

第Ⅶ期第2回理事会記録

理事（事務局）：荒川章義（立教大学）

日時：2016年3月26日（土）11:45~12:45

場所：東京大学本郷キャンパス経済学研究科学術交流棟小島ホール1階第2セミナー室

出席者：有賀裕二（会長）、西部忠（副会長）、藤本隆宏（大会実行委員長）大西立顕（大会組織委員長）、浅田統一郎、池田毅、磯谷明德、依田高典、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、岡村東洋光、小川一仁、吉地望（監査）、佐々木啓明、塩沢由典、瀬尾崇、徳丸宣穂、中原隆幸、原田裕治、福留和彦（会計）、廣瀬弘毅（監査）、宮本光晴、八木紀一郎、吉田雅明、吉田昌幸、荒川章義（事務局）

欠席（委任状あり）：青山秀明、澤邊紀生、谷口和久、服部茂幸、

1. 報告

1.1 有賀裕二会長挨拶

1.2 藤本隆宏東京大学大会実行委員長より挨拶

1.3 大西立顕東京大学大会組織委員長より大会開催状況報告

1.4 会勢報告

荒川事務局長より会勢報告があった

1.5 日本経済学会連合報告

植村博恭理事・池田毅担当理事より提出された資料を回覧した

1.6 各部会報告（資料回覧）

各部会代表者より提出された部会実施報告資料を回覧した

1.7 若手セミナー実施予定

瀬尾崇担当理事より今年度分は5月14日に立教大学で開催予定である旨報告があった

1.8 2015年度フェローへの贈呈品について

荒川事務局長よりフェローに贈呈される記念品に付いて説明があった

1.9 任意団体からNPO法人への移行の検討開始について

荒川事務局長より進化経済学会のNPO法人への移行について検討を開始し、次のオータムコンファレンスで検討結果を報告する旨報告があった

1.10 電気通信普及財団のシンポジウム・セミナー援助への応募について

荒川事務局長より大会企画資金確保のため電気通信普及財団のシンポジウム・セミナー援助に応募する可能性がある旨報告があった

1.11 次年度開催校京都大学佐々木理事より挨拶

佐々木啓明理事より次年度の大会について、

オータムコンファレンスに関しては9月24日（土）、年次大会に関しては3月25（土）・26（日）に京都大学吉田キャンパスで開催予定である旨報告があった。

2. 議題

2.1 入退会について

入会希望者、退会希望者及び会費未納による除籍対象者について審議され、提案通り了承された。

2.2 2015年度会計決算報告

福留和彦会計担当理事より2015年度収支計算書の中間報告が行われ、これを了承した。

2.3 2016年度予算について

福留和彦会計担当理事より2016年度予算の説明が行われ、これを了承した。

2.4 2016年度フェローの推薦と選考委員会の設置について

4名の会員についてフェローへの推薦が行われ、それぞれ有賀会長を委員長とする選考委員会を設置することを決定した。

2.5 学会賞の設置について

学会賞の規程ならびに募集要項が審議され、これを了承した。また第1回学会賞の選考委員長を八木紀一郎理事（2年任期）とし、選考委員を藤本隆宏理事（1年任期）、植村博恭理事（1年任期）、吉田雅明理事（2年任期）、とすることを了承した。

2.6 非会員のEIERレフェリーに対するトークンの配布について

EIERのエディトリアルボードの構成員などについては、八木編集委員長の判断のもとで非会員であってもトークンを配布することができるようにすることを了承した。

3. その他

3.1 非会員の報告について

非会員の報告については、ポスターセッションを含めて原則として認めないことを再度確認した。

進化経済学会第20回会員総会記録

理事（事務局）：荒川章義（立教大学）

日時：2016年3月27日（日）12:30~13:30

場所：東京大学本郷キャンパス経済学部 第1教室

1. 議長の選出
清水耕一会員を議長に選出した。
2. 有賀裕二会長挨拶
3. 藤本隆宏東京大学大会実行委員長より挨拶
4. 大西立頭東京大学大会組織委員長より開催状況報告
5. 若手セミナー開催予定
瀬尾崇担当理事より今年度分は5月14日に立教大学で開催予定である旨報告があった。
6. 会勢報告
荒川事務局長より会勢報告が行われた（資料1）。
7. 2014年度決算報告ならびに監査報告
2014年度の決算報告に関して、廣瀬弘毅監査委員、吉地望監査委員より間違いがない旨報告があった（資料2）。
8. 2015年度決算中間報告
福留和彦会計担当理事より2015年度収支計算書の中間報告が行われ、これを了承した。
9. 2016年度予算について
福留和彦会計担当理事より2016年度予算の説明が行われ、これを了承した。
10. 弔意規定の設置について
荒川事務局長より弔意規程を設置する旨報告があった（資料3）。
11. 学会賞の設置について
八木紀一郎理事より、学会賞の規程ならびに募集要項が提案され、誤字の修正の上これを了承した。また第1回学会賞の選考委員長を八木紀一郎理事（2年任期）とし、選考委員を藤本隆宏理事（1年任期）、植村博恭理事（1年任期）、吉田雅明理事（2年任期）、とすることを了承した（資料4-1, 4-2, 4-3, 4-4）。
12. 2015年度フェローの発表と記念品贈呈式
瀬池山敏会員ならびに塩沢由典会員を2015年度のフェローとすることが報告され、有賀会長より記念品が贈呈された。

13. 次年度開催校

佐々木啓明理事より次年度の大会について、オータムコンファレンスに関しては9月24日（土）、年次大会に関しては3月25（土）・26（日）に京都大学吉田キャンパスで開催予定である旨報告があった。

【資料1】

進化経済学会会勢

2015年9月14日時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	383 (入会3休会4含む)
個人終身正会員	4
院生会員	54 (入会5休会3含む)
賛助会員/団体	1
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	1
445	

2016年3月18日時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	385 (入会3会5含む)
個人終身正会員	4
院生会員	55 (入会1休会3含む)
賛助会員/団体	1
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	1
448	

道化経済学会
平成26年度 収支計算書決算報告
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減
会費	3,825,000	3,882,000	-23,000	大会費	1,100,000	738,121	-360,879
正会員該当年度		3,310,000		フォーラム・コンgres	460,000	100,000	-300,000
正会員該前年度		190,000		本大会	700,000	438,121	-261,879
新入正会員該当年度		50,000		英文誌編集発行費	2,800,000	1,713,713	-1,086,287
新入正会員該前年度		170,000		通信費	100,000	294,129	194,129
学生会員該当年度		30,000		交通費	0	0	0
学生会員該前年度		0		事務用品費	120,000	113,400	-6,600
正会員		2,000		謝金	20,000	20,000	0
賛助会員該当年度		50,000		送金手数料	20,000	7,222	-12,778
賛助会員該前年度		0		印刷費	0	0	0
大会収入	750,000	783,000	43,000	事務委託費	0	0	0
フォーラム・コンgres	150,000	160,000	-50,000	印刷委託費	680,000	631,529	-48,471
本大会	600,000	623,000	23,000	国際交流費	0	0	0
QU集塵	0	0	0	贈答品	100,000	94,000	-6,000
負担先結代	150,000	391,616	241,616	研究補助費	35,000	35,000	0
WEB印刷料	10,000	4,275	-5,725	研究学術連合会費	0	0	0
コピー・ファクス料	300,000	0	-300,000				
当期収入合計	5,035,000	4,891,473	-43,527	予備費	100,000	0	-100,000
前期繰越金	4,181,056	4,181,056	0	当期支出合計	5,085,090	3,528,114	-1,556,886
総計	9,226,056	9,182,529	-43,527	繰越金	4,141,056	5,614,415	1,513,359
				繰越金合計	9,226,056	9,182,529	-43,527

(単位:円)

貸借対照表
(平成27年3月31日現在)

借方	貸方
流動資産	流動負債
現金	0
預金	988,240
普通預金	3,731,296
貯蓄預金	
未収金	1,053,879
	次期繰越金
	前期繰越金
	当期繰越金
合計	5,774,415

(単位:円)

財産目録
(平成27年3月31日現在)

科目	管理部門	金額	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事 学生事務員(御座文庫) 郵便振替口座	988,240	3,731,296
未収金	第10回大会預金	1,053,879	
資産合計			5,774,415

(単位:円)

上記の通り相違がないことを確認いたしました
2015年 7月 15日
道化経済学会監査委員

廣瀬弘毅

上記の通り相違がないことを確認いたしました
2015年 8月 21日
道化経済学会監査委員

吉地望

【資料3】

進化経済学会弔意規定

2015年9月20日 理事会

第1条 本学会の理事・元理事及び会員・元会員の逝去に際して、会長が弔意を表す必要があると判断するときは、会長名による弔辞、弔電もしくは進化経済学会名による生花、弔慰金などを奉呈することができる。ただし、この場合には、会長は、その直後に開催される理事会にその旨を報告するものとする。

附則

1. 本規定は2015年9月20日より施行する。

【資料 4-1】

第1回進化経済学会学会賞募集要項

2016年3月27日

進化経済学会学会賞選考委員会
八木紀一郎（委員長）、藤本隆宏、植村博恭、吉田雅明

2016年3月27日の会員総会で「進化経済学会学会賞にかんする規則」が決定され、それにもとづいて「学会賞選考委員会」が成立しました。なお、この賞の選考についての詳細は、理事会で決定され、総会でも報告・紹介された「選考にかんする細則」によることとされていますので、応募の際にはそれをご参照ください。

つきましては、第1回の学会賞の対象となる会員の著作を募集しますので、多数の応募をお待ちします。

1. 選考対象

募集締め切り時を基準に過去3年以内（今回の場合、2013年5月1日～2016年4月30日）に公表された会員の著作（論文、著書）。

なお、上記の期間内に Evolutionary and Institutional Economics Review に掲載された、上記の応募資格をみたま論文は自動的に選考対象となります。

2. 応募方法

自薦または他薦による。応募者または推薦者は、推薦対象の著作2部（コピーあるいは電子ファイルも可）を「推薦理由書」とともに選考委員会に送付する。

「推薦理由書」は、学会のホームページからもダウンロードできます。

3. 受付期間と応募宛先

2016年4月1日から4月30日（締切日消印有効）

電子応募もできますが、必ず受け取りの確認を得てください。

〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17の8
摂南大学経済学部
八木紀一郎研究室内「学会賞選考委員会」宛て

4. 公表・授賞

2016年のオータムコンファレンスで公表し、翌年3月の会員総会で賞状と副賞（賞金）を与える。

【資料4-2】

進化経済学会学会賞推薦理由書

年 月 日 受付 受付番号

推薦者 (連絡メアド)	
推薦著作*	公表形態 (), 公表時期 (年 月)
著者 (連絡メアド) *	推薦著作公表時会員籍があったかどうか (有・無) **
推薦理由	
推薦著作の評価にあたって留意すべき点	

*対象となる著作の要件は「規則」および「細則」を参照

**この情報は、記載を省略してかまいません。

【資料 4-3】

進化経済学会学会賞規程

【趣旨】進化経済学の発展に貢献する会員の研究を顕彰するため、「進化経済学会学会賞 Prize of Japan Association for Evolutionary Economics: JAFEE Prize」を設ける。

【受賞】原則として年1回、年次大会に合わせて賞状と副賞を授与し、*Evolutionary and Institutional Economics Review* および学会サイトで授賞理由とともに公表する。

【選考対象】応募締め切り日を基準に過去3年以内に公表された会員の研究成果を示す著作物（論文、著書など）を自薦・他薦によって受け付けて選考の対象にする。この推薦は、当該著作物の公表後3年間のあいだは有効である。

【選考委員会】推薦された選考対象著作物の受理および選考は、理事会によって指名される会員4名からなる学会賞選考委員会がこれをおこなう。委員の任期は2年とし、毎年その半数を交代させる。委員長は任期1年で互選による。

【選考手続き】

- (1) 選考委員会は「応募要項」を作成し、会長の承認を得て公表する。
- (2) 会員は選考対象となる著作物を推薦理由を付して選考委員会に推薦できる。*Evolutionary and Institutional Economics Review* に掲載された会員の著作物は自動的に選考対象となる。
- (3) 選考委員会は必要に応じて、委員以外の会員・非会員に専門的評価を求めることができる。
- (4) 選考委員会は合議の上、授賞対象候補となる著作物を選定する。
- (5) 選考委員会は選考対象著作物の点数と委員全員の署名を付した「選考報告」と「授賞理由案」を作成し、理事会に提出する。
- (6) 理事会は選考委員会の報告を受けて、最終決定をおこなう。

【規定の改廃】本規定の改廃は、理事会の提案にもとづき、会員総会で決定する。

付則1. 「学会賞選考にかんする細則」は理事会で定め、会員に周知する。

2. 第4条の規定にかかわらず、発足時の選考委員会は任期2年の委員2名と任期1年の委員2名で構成する。
3. 本規定は、2016年3月27日から施行する。

【資料4-4】

学会賞選考にかんする細則

選考対象となるのは、ISBN あるいは ISBN が付されうるような、公刊された著書、公的にアクセスできる雑誌に掲載された論文、インターネット上で DOI を付して公表されている著作物である。最終的な公表とみなせないワーキング・ペーパー、ディスカッション・ペーパー、コンファレンス・ペーパーなどのセミ・パブリケーションは除外する。

共著の著作物も対象となるが、共著者の全員が進化経済学会の会員でなければならない。

推薦著作の言語は日本語ないし英語に限る。

推薦は1会員各回1点に限られる。ただし同じ著者による連続性のある著作であるならば、複数の著作物をまとめて1点として推薦できる。また、一度受け付けられた推薦は当該著作物の公表後3年間は有効である。

選考委員会の委員名と応募要項は、学会の ML とサイトで会員に周知をはかる。

推薦者は、推薦理由書とともに推薦対象著作物を2部(コピーあるいは電子ファイル可)を選考委員会に送付する。この著作物は原則として返却されない。

委員以外の会員・非会員に専門的評価を求めた場合、評価者の名前は推薦者・被推薦者に対して秘匿する。また評価者に対して謝金を支払うことができる。

選考委員会の合議はインターネット上でおこなってもよいが、理事会への選考報告書には委員全員の署名を必要とする。

歴代委員長は、推薦理由書と送付された著作物を原則として3年間保存する。

付則

- 1) 本細則は2016年3月27日から施行する。

学会費納入についてのお知らせ

理事（会計担当）：福留和彦

- 振込先の口座番号を下に記載致しました。学会のHPに掲載した場合、不特定多数の目に触れ悪用される懸念もあるのでニューズレターにのみ掲載いたします。
銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード9900、店番109）、預金種目 当座
店名：一〇九 店（イチゼロキユウ店）、口座番号0022493
口座名義：進化経済学会
- 学会の年会費は学会事務局から郵送される「振込票」（●見本）を使ってお振入をお願い致します。納・未納のチェックが簡便にかつ確実にできます。

- 振込期限は6月30日です。納入期限を過ぎましても郵便振替用紙はご利用になれますが、督促状の発送を行うための余計な費用がかかります。期限までに納めてくださいますようお願いいたします。
- 2013年度より会員種別と会費は以下の通りです。詳細は会則（2013年3月改訂）をご覧ください。
個人正会員 10,000円、個人終身正会員 50,000円、学生(院生)会員 5,000円
賛助会員 50,000円、個人準会員 2,000円

会則《付則》の第7、8項より

- 個人正会員は、63歳を越えた最初の年度より会費5万円を一括納入することで個人終身正会員となることができる。個人終身正会員は会費納入を免除される。個人終身正会員を希望する会員は別に定める「個人終身正会員登録申請書」を学会理事会に提出しなければならない。
- 個人正会員は、大学院等に在籍する学生およびそれに準じる研究者である場合、申請によって学生(院生)会員となることができる。学生(院生)会員は会費が半額に減免される。学生(院生)会員を希望する会員は別に定める「学会費減免申請書」を学会理事会に提出しなければならない。

【学会への問い合わせ、変更・入退会等の連絡先】

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学経済学部
事務局担当理事 荒川 章義
Tel. 03-3985-2345 Mail : a-arakawa@rikkyo.ac.jp

2015 年度部会報告

■「非線形問題研究部会」報告

進化経済学会非線形問題研究部会の 2015 年度研究会は下記の活動をいたしましたのでご報告申し上げます。活動は電子メーリングリスト evoecoapan のほかに有賀のホームページ (<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activities.html>) にて案内しています。

目次

1. 研究会セミナーの開催報告
2. 会計報告

1.研究会セミナーの開催

以下開催した研究会はすべて有賀が主査の科研費基盤 (B)「システミック・リスクと社会経済システムのレジリエンスに関する研究」(課題番号 26282089) との共催の形式で開催された。

進化経済学会非線形問題研究部会 2015 No. 1

主催 科研費基盤 (B)「システミック・リスクと社会経済システムのレジリエンスに関する研究」(課題番号 26282089)

日時 2015 年 4 月 6 日 (月) 15:00-18:00

場所 中央大学駿河台記念館 310 号室[30 人収容]
ア ク セ ス

<http://www.chuo-u.ac.jp/access/surugadai/>

課題 Building a Smart Digital Society Together
アブストラクト

講師 Dirk Helbing, ETH Zurich

FuturICT

進化経済学会非線形問題研究部会 2015 No. 2

主催 科研費基盤 (B)「システミック・リスクと社会経済システムのレジリエンスに関する研究」(課題番号 26282089)

日時 2015 年 10 月 3 日 (土) 15:00-18:00

場所 中央大学駿河台記念館 220 号室

ア ク セ ス
<http://www.chuo-u.ac.jp/access/surugadai/>

課題 A comment on Japanese Industrial Network

講師 有賀裕二 (中央大学)

進化経済学会非線形問題研究部会 2015 No. 3

主催 科研費基盤 (B)「システミック・リスクと社会経済システムのレジリエンスに関する研究」(課題

番号 26282089)

日時 2016 年 2 月 26 日 (金) 15:00-18:00

場所 中央大学駿河台記念館 350 号室[36 人収容]
ア ク セ ス

<http://www.chuo-u.ac.jp/access/surugadai/>

課題 Digital Revolution: How to Address Its Challenges

アブストラクト

講師 Dirk Helbing, ETH Zurich

講師紹介

FuturICT: "<http://futurict.inn.ac>"

2.会計報告

収入の部

繰越金 39,254 前期より繰越

部会補助費 0 (補助費全額返上)

収入合計 39,254

支出の部

次期繰越 39,254

支出合計 39,254

なお、2013 年 4 月に 150,000 円を返納、2015 年度も補助費を全額返上した。

このあとに監査人の署名

吉田雅明

非線形問題研究部会 有賀裕二(文責)

■「現代日本の経済制度」部会報告

第 1 回研究会

日時 : 2015 年 12 月 19 日 (土) 13:00~17:00

場所 : 横浜ランドマークタワー 18 階横浜国立大学
コンファレンスルーム

内容 :

第 1 部 小野寺研太 (東京大学総合文化研究科学
術研究員)

「戦後日本の社会思想史:近代化と「市民社会」の変遷」

第 2 部 大熊一寛 (東北大学法学研究科公共政策
大学院 ; 環境省)

「グリーン成長は可能か? : 経済成長と
環境対策の制度・経済分析」

第 3 部 「21 世紀市民社会の針路: レギュラシ
オン理論との関係を念頭に」

① 山田鋭夫 (名古屋大学) : 「内田義彦における市民社会」

② 植村博恭 (横浜国立大学) : 「現代経済学における市民社会: ボウルズ・ボワイエ・新制度派」

③ コメント: 原田裕治 (福山市立大学)・藤田菜々子 (名古屋市立大学)

文責: 原田裕治 (福山市立大学)

■ 「制度と統治」 部会報告

1. 第1回 進化経済学会・「制度と統治」部会

(京都大学経済学研究科「制度的経済動学プロジェクト」との共催)

日時: 2016年2月13日(土) 13時より

場所: 阪南大学あべのハルカスキャンパス (JR天王寺駅・近鉄阿倍野橋駅)

プログラム:

13:00—14:30 塩沢由典氏 (大阪市立大学名誉教授)
「進化経済学の全体像と制度経済学の反省」

14:30—14:45 休憩

14:45—15:45 第一コメント: 宇仁宏幸氏 (京都大学)

第二コメント: 中原隆幸氏 (阪南大学)

15:45—16:00 リプライ: 塩沢由典氏

16:00—16:15 休憩

16:15—17:30 ディスカッション

2. 第2回 進化経済学会・「制度と統治」部会

(進化経済学会・「制度とイノベーションの経済学」部会と共催)

日時: 2016年3月12日(土) 14時より

場所: 阪南大学あべのハルカスキャンパス (JR天王寺駅・近鉄阿倍野橋駅)

プログラム:

14:00—14:50 久本憲夫氏 (京都大学)
「正社員像の画一化と多様化—共稼ぎ正社員モデルの主流化を求めて—」

14:50—15:10 休憩

15:10—16:10 清水耕一氏 (岡山大学)

「法制的・マクロ経済的ショックが労使関係に与えた影響: 35時間労働法から2008年以後の経済危機までのフランスについて」

16:10—16:30 コメント: 宇仁宏幸氏 (京都大学)

16:30—17:00 質疑応答

以上の2回の研究会を実施しました。

文責: 巖成男 (新潟大学・部会事務局)

■ 「九州部会」 部会報告

1. 研究会「経済学と経済教育の現在と未来を考える」

報告者: 八木紀一郎 (摂南大学経済学部教授)

日時: H27年7月30日(木) 13:30~16:00

会場: 九州産業大学1号館9階経済学部中会議室

*九州産業大学経済学会と合同開催

2. 研究会「武藤山治の企業経営思想」

報告者: 山本長次 (佐賀大学経済学部教授)

日時: H27年11月20日(金) 16:20~17:50

会場: 九州産業大学1号館9階経済学部小会議室

*九州産業大学経済学会と合同開催

文責: 岡村東洋光 (九州産業大学)

■ 「観光学研究部会」 部会報告

観光学研究部会では2015年度に以下の活動を行った。

第26回研究会

日時 2015年7月25日(土)

場所 追手門学院 大阪梅田サテライト

【特別講演】 東浩紀 (思想家・ゲンロン代表) 「原発事故とダークツーリズム」

(追手門学院大学社会人連続セミナーと共催)

第27回研究会

日時 2015年11月11日(水)

場所 東京大学ものづくり経営研究センター

講演 井出明 「近代化産業遺産とダークツーリズム」
(企業・産業の進化研究会と共催)

また、第20回進化経済学会東京大会2015において、通常の「観光」のセッションに加え、特別セッションとして「ダークツーリズムの最前線」を開催した。

文責: 井出明 (追手門学院大学)

■ 「北海道・東北部会」部会報告

第17回進化経済学会北海道・東北部会

日時：2016年2月6日（土）午後13時から
場所：北海道大学経済学研究棟3F 大会議室

内容

第一報告 13:05-14:35 瀬尾 崇 Takashi, Seo（金沢大学人間社会学域経済学類 准教授）

「Schumpeterian Innovation System in Knowledge Capitalism」

第二報告 14:50-15:50 黒瀬 一弘 Kazuhiro, Kurose（東北大学大学院経済学研究科 准教授）

「The Structure of the Models of Structural Change and Kaldor's Facts: A Critical Survey」

第三報告 16:00-17:00 吉地 望 Nozomi, Kichiji（北海道武蔵女子短期大学 教授）

「外国人観光客の動線分析—北海道上川中部を中心に—」

第四報告 17:10-17:30 牛澤 隆司 Ryuji, Ushizawa（進化経済学会 学会員）

「Duverger's Law, the M+1 Rule, and Voting Costs（デュヴェルジェの法則・M+1ルールおよび投票費用）」

第五報告 17:30-17:50 小林 大州介 Daisuke, Kobayashi（北海道大学大学院経済学研究科 博士後期課程）

「人工物進化研究の持つ含意—認知科学、文化・技術進化論、そしてイノベーション理論へ」

第16回進化経済学会北海道・東北部会

日時：2015年7月31日（金）16:30～18:30
場所：北海道大学大学院経済学研究科研究棟 3F 301 会議室

内容

報告者 慶應義塾大学商学部教授 遠藤 正寛
“The Effect of Offshoring on Hourly Wages and Annual Income in the Japanese Manufacturing Sector”

コメンテーター：北海道大学大学院経済学研究科 准教授 須賀 宣仁

文責：吉地 望（北海道武蔵女子短期大学）

第21回進化経済学会京都大会（京都大学）・オータムカンファレンスアナウンス

京都大学において第21回進化経済学会を開催します。

本年度の大会テーマは「社会科学のニューパラダイム」です。学会設立より20年が経ち、京都大会は21回目の節目の大会となります。そこで、進化経済学の原点に立ち戻り、進化経済学とは何かをあらためて問う機会といたします。

オータムカンファレンスでは、「進化経済学のあゆみと展望——進化経済学を問う——」とサブ・テーマを設定し、学会内の部会によるパネルディスカッションを行うこととなりました。各部会が活動報告をしたうえで、進化経済学をどのように考えているのかを報告・討論します。また、部会の討論に先立ち、「これまでのあゆみ」と題し、学会設立時からの経緯をご存じの先生方に報告・対談いただきます。

年次大会では、オータムカンファレンスで議論された進化経済学の展望を基に、進化経済学の進むべき道を探りたいと思います。

現在、大会実行委員会は、本年9月と来年3月に向けて準備を進めております。皆様のご協力をお願いいたします。

第21回京都大会実行委員長
佐々木 啓明

大会テーマ：「社会科学のニューパラダイム」

オータムカンファレンス

「進化経済学のあゆみと展望——進化経済学を問う——」

日時：2016年9月24日（土）13:00～

会場：京都大学・吉田キャンパス（経済学研究科）

年次大会

日時：2017年3月24日（土）・25日（日）

会場：京都大学・吉田キャンパス（百周年時計台記念館、経済学研究科）

※プログラム、報告申し込み等については、大会ホームページ、メーリングリストにてご案内します。

会員異動

1. 新規入会者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別	推薦会員
加藤 木綿美	Kato	Yumi	東京大学大学院 経済学研究科 博士課程2年	学生会員	藤井 隆宏先生, 吉井 哲先生
岩尾 俊平	Iwao	Shunpei	東京大学大学院 経済学研究科 博士課程1年	学生会員	藤本 隆宏先生, 吉井 哲先生
三藤 利雄	Mitsufuji	Toshio	立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科	個人会員	徳丸 宣穂先生, 藤田 真哉先生
藤井 雅雄	Fujii	Masao	立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科	学生会員	徳丸 宣穂先生, 吉井 哲先生
板谷 和也	Itaya	Kazuya	流通経済大学 経済学部	個人会員	井出 明先生, 佐々木 一彰先生
吉川 晃史	Yoshikawa	Kohji		個人会員	澤邊 紀生先生, 柊 紫乃先生
韓 丹	Han	Tan	名古屋大学経済学研究科	学生会員	長尾 伸一先生, 田中 啓太先生
加藤 里紗	Kato	Risa	名古屋大学大学院 経済学研究科	学生会員	長尾 伸一先生, 田中 啓太先生

2. 名簿訂正

会員名	変更箇所	住所/種別	TEL/FAX/e-mail	所属名
野崎 道哉	自宅			
井上 寛康	所属			兵庫県立大学 シミュレーション学研究科
村上 雅俊	自宅			

編集後記

いつも掲載原稿の執筆にご協力いただきありがとうございます。No. 40 の配信は皆様のご協力のおかげで予定よりも早く配信することができました。

本年度の大会テーマは「社会科学のニューパラダイス」です。オータムカンファレンスではこれまでの進化経済学会の歩みを確認するとともに、今後の展望を議論する予定となっています。本大会もあわせて是非積極的な参加をお願いします。

昨年度から「進化経済学会学会賞」が設けられています。EIER は自動的に選考対象に含まれますので是非積極的に投稿くださるよう、よろしくお願いします。

最後になりましたが、ニュースレターに関するご意見等ございましたらお寄せいただくと幸いです。

ニュースレター編集担当：吉田 昌幸（上越教育大学）